鷺内（さぎうち）遺跡出土の縄文時代のかご・ざる製品

平成30年12月16日（日）一般公開資料
南相馬市教育委員会 文化財課

南相馬市鹿島区に所在する**鷺内遺跡**では、**縄文時代後晩期（約３０００年前）**の**低地性土坑**（人が掘った水がたまる穴）が集中して検出されました。この低地性土坑から、かご、ざる製品が多量に出土しています。製品の中には全国で出土例のないクルミが詰まった状態のかごもありました。

１．鷺内遺跡の概要

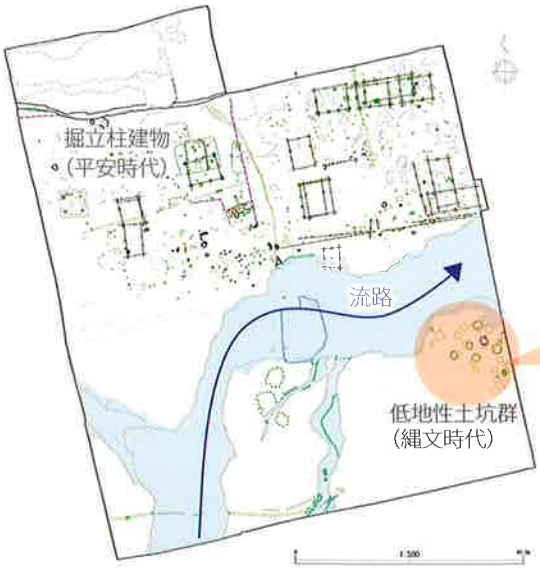
・所在地　福島県南相馬市鹿島区寺内字鷺内

・遺跡の立地

鷺内遺跡は、太平洋から内陸に５km入った真野川とその支流・上真野川との合流点にあります。遺跡は、自然堤防と段丘に挟まれた標高約10mの沖積地に立地します。

南側の段丘上には縄文時代中・後期の拠点集落と考えられる八幡林遺跡があり、国史跡真野古墳群、大六天遺跡などの古墳時代から平安時代に至る重要遺跡に隣接しています。

鷺内遺跡位置図



鷺内遺跡全体図

遺跡西側から太平洋を望む

・調査概要

県立特別支援学校建設工事に伴う発掘調査を、南相馬市教育委員会が平成29年10月より平成30年６月まで実施しました。

・今回の調査で確認した主な遺構

＜縄文時代後晩期＞　低地性土坑群
＜古墳時代後期＞　流路
＜平安時代＞　掘立柱建物、竪穴住居

なお、過去のほ場整備に伴う発掘調査により、調査区の南側で縄文時代の柱穴が確認されていますが、今回の調査では縄文時代の建物跡は確認することはできませんでした。また、隣接する中才遺跡でも、縄文時代晩期の低地性土坑を検出した他、同時期の製塩土器が多量に出土しています。

低地性土坑群（上空からの写真）

2．低地性土坑群

調査区中央の流路の右岸（南側）の20×15mの集中した範囲で、土坑を31基確認しました。土坑の底面は、水が湧く、または水が溜まる環境になっています。ほぼすべての土坑から堅果類（ドングリ類、トチノキ、オニグルミ、クリ等）が出土しています。

・土坑の形態

平面形は円形を基本としており、長さ2m以上、深さ1mに及ぶものがあります。規模から大きく2つに分類できます。

小型　長軸1.5m以下、深さ40㎝以下・・・　13基
大型　長軸1.5m以上、深さ70㎝以上・・・　18基　※かご、ざる製品はすべて大型土坑から出土しています。

・低地性土坑とかご、ざる製品の関係

低地性土坑から出土したかご、ざる製品は、どのような目的で使われたのでしょうか？

堅果類（ドングリ類、トチノキ等）を水につける目的は

①堅果類の中の虫を殺すこと
②トチノキ等のアク抜きをすること
③クルミの殻を割りやすくすること
④クルミの殻をきれいにすること
⑤ネズミなどに食べられないように貯蔵

などが考えられます。

かご、ざる製品は、これらの目的を果たす容器として使用されたと考えられるほか、枝や木の葉と重なって出土することから、水をろ過する目的で敷かれていた可能性もあります。

今後、研究を進めることで　縄文人が水辺をどのように利用したのか、また、堅果類をかご、ざる製品を使って、どのように処理・貯蔵していたのかを明らかにすることが期待されます。

低地性土坑

SK12　出土状況

3．出土した縄文晩期のかご、ざる製品

（1）概要

低地性土坑群31基のうち**3基から合計で12点のかご、ざる製品が出土**しました。（内2点は同一個体の可能性があります。）この12点のかご、ざる製品は、土坑内から出土した土器の時代から、縄文時代晩期の製品と考えられます。

・SK12　かご、ざる製品が重なるようにして合計7点が多量出土。　（5号～11号）
・SK10　クルミが詰まったかごやざる状の製品を含め、合計4点が出土。（1号～4号）
・SK32　壁際に縦に張り付いた状態で1点が出土。（12号）

？？　縄文なぜなぜコーナー　？？

①かご、ざる製品はなぜ腐らずに残っていた？

縄文時代の植物質の有機物は、大変残りにくいものです。それは、有機物は土器や石器と違い、長い時間を経ると微生物による分解や酸性土壌等の理由で腐ってしまうからです。

鷺内遺跡の土坑のように、低湿地で水が常に動いている場所では、水漬けの状態で保存されるため、有機物は分解されずそのまま残ったと考えられます。中でも今回検出した土坑はとても条件が良かったと言え、多くの発見につながりましした。

②なぜ中身の入ったクルミかごがそのままの状態で出土した？

全国的にも有名な青森県の三内丸山遺跡で出土した「縄文ポシェット」の中には、クルミが一個入っていましたが、鷺内遺跡の4号編組製品（かご）の中には、クルミが数100個も「ぱんぱん」に詰まっていました。本来はここから取り出し、食べるか誰かに分けるかしていたことでしょう。

土坑の中にそのままになっていた理由は今のところ「なぞ」です。大切に保管していたはずですが、縄文人はうっかり忘れてしまったのでしょうか？

（2）オニグルミが詰まったかごの出土（SK10 4号編組製品）

4号編組製品は、口縁部から底部まで残っていました。かごの内部にはオニグルミが詰まった状態で出土しています。まさに縄文人がおいたそのままの状態で見つかった出土状況は、全国でも初めてです。

また、4号編組製品は、目が粗いのですが、厚みのある素材が用いられ、しっかりとした作りとなっており、数100個のクルミを詰められる強度を持っていると言えます。一方、ナラガシワなどのドングリ類では、隙間から落ちてしまい、小さなドングリ類を保管するには適していません。

これらの特徴から、4号編組製品はクルミなどの大きな堅果類専用のかごである可能性が指摘できます。

保管や運搬の利用

4号編組製品は強度を保った作り方であることに加えて、小ぶり（33×20㎝）であることから、クルミの保管だけでなく持ち運びも可能であると考えられます。

このように、4号編組製品はクルミの保管や運搬に適した形、大きさ、強度を備えています。

口縁近くは、隙間なく素材を密にし、強度のある作りとなっています。口縁部は素材を巻きつけて作られています。

選別されたオニグルミ

4号編組の中のオニグルミは、本遺跡のほかの個体と比較して、形や大きさ（径約3.5㎝）がそろっており、**特別に選別したオニグルミ**を詰めていたと考えられます。大きなオニグルミを特別に保管していたのか、交易品としていたのか、想像が膨らみます。

この出土状況から、縄文人のクルミ利用に迫ることができるかもしれません。

ここに結び目がついています。吊り下げて使っていたのでしょうか？
体部は目が粗く、厚い素材で作られています。

（3）鷺内遺跡のかご、ざる製品の特徴

○ 遺存状態の良さ ○

状態が非常によく、口縁部から底部まで残る製品が多くあります。特に４号編組製品の人に使われていた状態がそのまま残っているのは奇跡的と言えるでしょう。

○ 出土数の多さ ○

鷺内遺跡からは、総数 12 点のかご、ざる製品が出土しています。国指定重要文化財に指定された福島県三島町の荒屋敷遺跡での出土数（７点）を超えて、福島県内最多の出土数となります。

○ 技法や形態の多様性 ○

クルミの詰まった４号編組製品以外にも深さを持ち、目が細かいかご状の製品（２・６・９・12 号）や平面が方形で立ち上がりが浅いざる状の製品（１・５号）など多様な技法と形態が見られます。

6 号（かご状） SK10

1 号編組製品（ざる状）SK 10

１号編組製品は浅いざる状の製品でクルミが詰まった４号編組製品の下から出土しました。底の角部分に輪が付いており、吊るす、引っ張り上げる用途が想定されます。

1 号 (ざる状)SK10

1・5 号 SK10

12 号（かご状）SK32

発掘作業、取上げ作業の様子

がご、ざる製品は、発掘調査現地から土ごととりあげ、室内で詳細に土を除去する作業を行いました。

4．かご、ざる製品の今後

縄文時代のかご、ざる製品は、全国でも 80 数遺跡でしか出土例がないことから、鷺内遺跡の多量かつ良好な状態の資料は、かご、ざる製品を研究をする上で重要資料と言えます。

また、かご、ざる製品のみならず、堅果類が出土する低地性土坑は、東北地方の縄文時代の植物資源利用を考える上で多くの情報をもちます。

南相馬市教育委員会では、今後、かご素材の自然科学分析をするなど、この貴重な資料の研究を進めるとともに、保存処理を行い、市民の皆さんに広く公開できるよう進めていきたいと考えています。